

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスあすなる				公表日	令和8年 2月25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		学習や絵画・工作、パソコンをする場所と集団生活をする場所を、静と動で分けて使用している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		子供の発達や特性を踏まえ、マンツーマンで対応、寄り添い、丁寧に細やかな支援に務めている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		バリアフリーになっていない場所には、手すりを設置して配慮している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		サービス提供前後の細やかな清掃・消毒に加え、空気清浄機の稼働、定期的な換気を行い、清潔で心地良い環境で行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		学習、パソコン、ピアノ等、個別指導ができるよう環境整備に努めている。区切る事により集中できる環境も整えている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		終礼にて一日の振り返りを実施。朝礼や職員会議にて問題点や解決策、次回の活動に繋げる取り組みができています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表の結果を職員にも周知、面接で得られた保護者の意向を職員間で共有し改善に繋げている。	今後も面談時、日頃の連絡帳や送迎時などのやりとりからも、家族の意向をくみ取り、寄り添った支援を心掛けていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日頃から意見を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者による外部評価は法人全体としての課題検討事項とする。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事業所内だけでなく、外部研修にも参加している。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		職員全員で支援プログラムについて検討作成公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		課題の整理表を用いて原案作成会議を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当職員を中心に全職員で共有している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		作成した計画は全職員で共有している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		法人内で共通のアセスメントツールを用いて確認を行っている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域をふまえた具体的な支援内容を設定するように心掛けている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		5領域で活動のねらいを分け、翌月の月案を話し合い立案している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節や個々の発達段階に応じた活動内容を取り入れるように工夫している。	スモールステップで成功体験を積みながら活動に参加できるようにしている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		特性や発達段階に応じた個別指導と集団活動を組み合わせながら計画を作成実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		一日の流れや役割分担を一目で把握できるようにボードを使用し情報共有を図っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼にて一日の振り返りを実施。朝礼や職員会議にて問題点や解決策を職員間で話し合っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援内容を業務日誌に記入し、支援の検証改善に繋げ、担当利用者を分担し、一人の視点のみにならないよう工夫している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6カ月に一回面談を行い、意向を確認しながら評価の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		基本活動に沿った内容で平日・長期休暇の別等に応じて、柔軟に組み合わせ実施している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		様々な活動では工程に分けて選択する機会や、フリータイムに自己選択の機会を設けるよう務めている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管が参加し情報共有を行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		利用者の生活にかかわる関係機関との連携に努めていきたい。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		ご家族を通して学校と連携し情報共有を行うよう努めている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて情報共有を行い連携に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		現在該当者なし	事業所利用終了後も利用者の生活を支える一助となるよう、同意を得た上で行っていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じ専門職から助言を受けることができています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		季節ごとのイベント（お花見会・ハロウィン・クリスマス）やワークショップ、土曜フェスタ等、地域の子供達との交流機会を増やすよう努めている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳や送迎時LINEにて動画や写真を添え、活動内容等わかりやすく伝え、日頃から共有に務めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		現状将来の自立を見据えた日々の関わり方や個別支援面談時の助言を行っている。	定期的な家族支援プログラムの実施を課題検討事項とする。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や面接時にお伝えしているが、必要であれば再度説明する。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		特別に聞き取りを行うとともに、面談時にも再度意向を確認するようにしている。	保護者の意向が優先されやすい傾向にあるので、子供の意向も確認し尊重している。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		面接時に各項目の説明を行い周知を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		面談をはじめ相談時に支援させていただき、寄り添った支援を心掛けている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		ワークショップやクリスマス会、親子上映会（毎月）に家族での参加を実施している。	働いている保護者が多いので参加者の確保が課題。ペーパーカップヘリコプター親子工作、クリスマスリース親子工作等の開催予定。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		情報を共有し何事も迅速な対応を心掛けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		子供達の活動内容や活動の様子を、毎月会報やLINEにて発信している。自己評価表はHPにて公表。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		全職員取り扱いに注意を払っている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		LINEを使用し、写真を使ってイメージしやすく配慮。いつでも情報伝達できるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		季節ごとのイベント（お花見会、ハロウィン、クリスマス会）や土木フェスタ等、地域の人や子供達との交流を増やすよう努めている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し、職員は事業所内研修、外部研修で周知している。	職員の研修同様、保護者へのマニュアル周知も積極的に実施していきたいと考えている。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		避難訓練は地震・火災年2回実施。訓練内容も知っていたりできるように周知している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			現在アレルギーのある利用者はいないが、今後あった場合は医師や保護者と連携していきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		定期的に施設の安全点検を行い管理し安全を確保している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時や面談時に説明を行っているが、緊急連絡表を整備し速やかに連絡をとるようにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットなど報告書を作成し職員が書きやすいように工夫を行い、タイムリーに検討対策を実施している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		全職員が虐待に関する正しい知識を持ち高井意識で支援にあたり、事業所全体で取り組む体制の構築が不可欠。	より一層虐待防止に努めていきたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在該当者なし	現在身体拘束の必要な利用者はいないが今後あった場合は医師や保護者と連携していきたい。「利用者の人権と尊厳最優先」という意識を職員全員が持ち、身体拘束を必要としない環境と施設全体のケアの質を向上させる。	